

寺尾トピックス

バス停紹介

おかげさまで寺尾病院は来年3月で、90周年を迎えます。
この度令和3年10月より、植木1丁目バス停から【寺尾病院前】バス停に名前が変わりました！



HALLOWEEN〔院内保育所〕



院内保育所では HALLOWEEN にちなんでみんなで仮装して小さい子達もゴロゴロに乗ってみんなで仲良くお散歩しました。
恐竜さんやディズニーキャラクター、ミニオンやおさるのジョージがいたり、保育士も魔女やウォーリーに変身したりして、みんなとっても可愛かったです。

寺尾レポート

	R3.9	R3.10	R3.11
1日平均外来数	161	141	159.5
新規入院	52	45	53
退院	57	47	54
通所リハビリ利用者数	1099	1191	1091

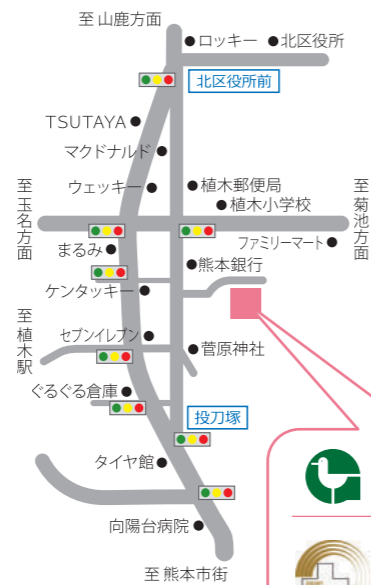
(単位:人)

○回復期リハビリテーション病棟
在宅復帰率:85.5% 平均単位数:6単位
入院時の重症割合:35.2% 平均在院日数:57.4日
重症改善割合:66.6%
実績指数:48.34


○地域包括ケア病棟
在宅復帰率:82.3%
平均在院日数:27.5日



交通アクセス



- ▶九州産交バス/熊本~山鹿線
寺尾病院前バス停より…徒歩約1分
- ▶JR九州/JR鹿児島本線
植木駅下車…タクシーで約8分
- ▶自家用車/九州自動車道
植木インターより…車で約10分
水道町交差点より…車で約30分

 医療法人 寺尾会 寺尾病院

〒861-5504 熊本市北区小糸山町759
TEL:096-272-0601 / FAX:096-273-2759
URL <http://www.terao.or.jp/>

TERAO NEWS

Vol.27
2021.12発行



寺尾病院・呼吸器内科診療内容のご紹介

副院長 松本充博



「産右の銘」

一生感動 一生青春

相田みつを氏の詩集より

令和元年・年末ころから、中国武漢市から発生した新型コロナウイルス感染が世界中で猛威をふるい、多数の方が感染し、お亡くなりになりました。そのため、社会生活が脅かされ、通常の生活が送れない日々が続いていました。やっと、本年令和3年11月頃から、第5波が終息傾向になり、感染者数が激減し、通常の生活に戻りつつあります。

この約2年間を振り返ってみますと、感染の診断（新型コロナウイルス遺伝子診断・PCR法、抗原検査など）に限られた施設でしか行われておらず、暫くは診断するのも一苦労でした。本年になってやっと簡単な抗原検査、PCR法が行き渡り診断には困らなくなったと思っています。

患者様の対応については、プレハブのコンテナ2棟を玄関脇に設置し、ご迷惑をおかけいたしますが、「発熱外来」を設け、新型コロナウイルス感染者を見出すようにしていました。また、患者様のご家族にはご不便をおかけしましたがリモート面会（直接は接触しないでモニター画面を通じての面会）を行い、直接、顔を合わせる面会を制限しました。現在は一部解除しています。

いろんな方策を講じたおかげで、幸いにして寺尾病院からは患者様、職員からクラスターが発生することはありませんでした。

私の専門は呼吸器内科ですので、寺尾病院で診断可能な疾患・病気を紹介します。

睡眠時無呼吸症候群。この疾患は、肥満の方に多く、「鼾をかいて寝る、日中も居眠りばかりしている。」などの症状がある方は、自宅へ診断する器械を持って帰っても良いし、一泊入院で簡単に診断ができます。鼻マスク式持続陽圧呼吸器を用いて治療を行います。

気管支喘息、肺気腫、呼吸不全、間質性肺炎の診断は肺機能検査、歩行負荷試験、CT検査を行うことにより診断が可能です。呼吸不全の患者様には在宅酸素療法を導入しています。

肺癌は胸部CT検査を行うことで画像診断から予想はできますが、気管支鏡検査などを行い、病理診断が確定診断のために必要となります。

非侵襲的人工呼吸器を用いた、軽症の呼吸不全治療も可能です。

肺炎、気道感染症（慢性気管支炎、気管支拡張症、び慢性汎細気管支炎、非結核性抗酸菌症など）の治療は当然のこととしておこなっております。

寺尾病院は開院九十周年を迎えます、今後もより一層、地域医療への貢献を果たしたいと思っております。

院内研究発表会



I. 当院回復期リハビリテーション病棟におけるリハ栄養の検討
～栄養評価表を導入して～

リハビリテーション部

II. 循環器外来の待ち時間短縮への取り組み

看護部

III. 外来レセプト業務の見直し

事務部

IV. 短時間通所リハビリテーションにおける
パワーリハビリテーション機器の効果について

在宅支援センター部門

令和3年10月22日に、第5回院内研究発表会を開催しました。寺尾病院では年1回の院内研究発表会を行っており、各部門から選出された代表者が7分間の発表の後、質疑応答という形式で進行します。内容はリハビリテーションにおける有効な取り組みなど、業務を円滑に効率よく進める為の改善、工夫が主なテーマでした。諸課題に対するソリューションを積極的に実施する事案を共有することができました。今後も他部門の取り組みを知ることで、病院全体で切磋琢磨し意識の向上を目指します。



防災訓練を実施しました

今回は夜間における2階浴室からの出火を想定した夜勤スタッフ7名、模擬患者（担送患者10名護送患者5名）で行いました。前回の訓練で反省に上がっていた「声が出ていない」、「火元のドアを開けたまま」という事をしっかり改善し行動できていました。今回の反省点は毛布などを利用して担送する際、毛布の滑りが悪く苦戦していたので、少人数でも効率よく避難できるよう改善を検討します。患者様をはじめとする院内の安全確保のため、万が一に備え職員1人1人が冷静に行動できるように引き続き実施します。

